



NO.53

2017. 8

発行人 清野 光彦

発行所 事務局

編集 企画総務委員会（委員長 竹田 匡）

〒060-0002

札幌市中央区北2条西7丁目 かでの2.7 4階

TEL.011-213-1313/FAX.011-213-1314

UD ユニバーサルデザイン(UD)の考え方にに基づき、
FONT より多くの人に見やすく読みまちがえにくい
デザインの文字を採用しています。

かわら版

目次

1	新会長就任ご挨拶	2
2	新副会長就任ご挨拶	
	事務局長の就任、退任ご挨拶	3～4
3	新体制決まる！	5
4	全道研究集会、定時総会	6～8
5	クロスワード／	
	事務局からのお知らせ	9
6	地区支部からのお知らせ	10

=事務局から=

★ ぱあとなあ名簿登録者の皆さま ★

2017年度のぱあとなあ名簿登録料引き落とし日は8月28日となります。

口座の残高の確認をお願いいたします。

— 会員の動向（6月30日現在） —

○総会員数 1,819名(男性968名 女性851名)

○入会率 18.86%

○新入会員数（転入含） 88名（累計）

○退会員数（転出含） 0名（累計）

【新会長 就任ご挨拶】

公益社団法人北海道社会福祉士会

会長 清野 光彦

この度の第19回定時総会において、会長就任の承認を受けました清野です。前体制から引き続き、今回は、さらに重い責任を会員の皆様から負託され身の引き締まる思いを感じております。

今般の総会では、新任10名を含む20名の理事及び監事2名が選出され、フレッシュな顔ぶれがそろった新たな業務執行体制のもとでの船出となりました。

今回の役員選出にあたり、特徴的なことは、道央圏以外の地区支部出身者が13名に達したことです。北海道社会福祉士会が任意団体として発足してから今日まで、主に道央圏の会員の皆様に多大なご負担を賜りつつ牽引していただけてきましたが、意思決定機関としての役割を、ようやく北海道全体でシェアし、文字通りオール北海道として道民のみなさまの福祉の向上に応えられる体制が整ったことにとりわけ感慨深いものがあります。

私は、北海道の理事に就任する以前に日本の理事を2期4年務めさせていただきました。

当時の日本社会福祉士会は、丁度47都道府県を正会員とする現体制に移行する時期に当たり、故山村睦会長の下、侃々諤々の議論の末にやっとのおもいで現行の体制を創り上げましたが、この議論の中に身を置いていて、これからは単なる日本の下部組織として機能するのではなく、独自の施策を打ちつつより身近な地域で実践を重ね

ることによって、顔の見える地域の為の北海道社会福祉士会を創ることが求められているという事を痛感し、道理事になることを決意致しました。

そんなことを背景にしながら、私は、今回会長就任にあたり、会員のみなさま向けに以下にお示しをする3点を柱に所信を述べさせていただきます。

1. 会員や道民のみなさまにとって身近な地域である7地区支部の活動がより活発になるような仕組み作りを進めます。
2. 人材の育成の観点から7地区支部との連携により早期に生涯研修体制を完成させます。
3. 少数者（マイノリティー）であるという理由で制度政策から排除されてしまう小さな福祉ニーズにも応えられるよう努力します。

もちろん低迷する組織率の向上や財政健全化の課題、また各分野における制度改正や新法成立に関わる活動基盤の整備、とりわけ今任期中の対応が求められる成年後見制度利用促進法については、権利擁護事業の継続性の観点から他団体とも連携を密にしながらしっかりと取り組んでいく所存です。

最後になりましたが、北海道社会福祉士会の活動をさらに前に押し進めていくためには、会員のみなさまのお力の集結が不可欠です。私も鋭意努力してまいります、さらなるご支援の程お願い申し上げます、簡単ではございますが就任のご挨拶に代えさせていただきます。

【新副会長 就任ご挨拶】

副会長 山 崎 加代子

みなさまこんにちは、このたび再度副会長を拝命いたしました。6年前に理事を拝命してから、ケアマネ委員会、地域包括支援センター支援委員会、災害対策委員会障害者地域生活支援委員会を担当させていただき、今期は新たに現場実習指導者研修委員会の皆さまとも仕事をさせていただきます。

昨年8月、十勝を襲った10号台風の際には、災害対策副本部長として、現地とやり取りをさせていただきましたが、社会福祉士は、被災地で何ができるのか、また何を期待されているのか、ということ深く考えさせられました。そして、平時からの各地区支部での災害に対する活動の重要さと近隣支部との連携の必要性を痛感いたしました。

6月10日の総会で、「これからの会運営は各地区支部の動きが中軸となり、発信源となるようにして行きたい」と清野会長のあいさつがございましたが、最近地域のネットワークを通じて、地域づくりをテーマに、様々な活動をしている若い社会福祉士の方たちとお会いする機会が増えてきているように思います。とてもうれしいことだと思っております。「ALL 北海道」の掛け声のもと、微力ではありますがお役に立たせていただきたいと念じております。どうぞよろしくお願いいたします。

副会長 高 橋 通 江

『社会福祉士として生活したい。』社会福祉士の受験勉強をしているとき、試験に合格したいではなくそのように思いました。また、地域包括支援センターに社会福祉士が必置になることがわかったとき、当時は社協で働き、充実していましたが、『包括の社会福祉士として働きたい。』と強く思いました。北海道でこの夢がかない、仕事に誇りをもつ一方で、責任も感じています。そして、このような私を支えてくださったのは、社会福祉士会という職能団体、また会の活動を通じて知り合うことが出来た先輩方です。縁あって福井県から北海道で生活することになり、まったく土地勘のない私に、事務局や先輩方が丁寧に教えてくれたり、つなげてくれたり、そのような関わりがあったからこそ今の私がいるのだと実感しております。

このたび、副会長という重責を担うことになりましたが、11年前に私が感じた『この会に入って良かった。』という思いを、今後活躍される後輩の方々にも感じていただけるように、また、先輩方がつくってくださったこの道をより太く長くし、10年後、50年後には、社会福祉士が様々な分野でなくてはならない社会資源となれるように皆様方と一緒に歩んでいきたいと思います。よろしくお願いいたします。

【事務局長の就任、退任ご挨拶】

副会長 神内 秀之介

この度、初めて理事に就任したうえ、副会長の重責を担うこととなりました。担当委員会等としては、総務企画委員会・子ども未来部会、障がい者等地域生活支援委員会、福祉サービス第三者評価推進機構となっております。各担当理事や委員のみなさんと連携を図り着実に推進したいと思えます。

総務企画委員会・子ども未来部会では、財務状況の改善・委員会再編、事務局体制の強化・規程類の精査、整備・広報、情報提供体制の強化・子ども部会の運営の円滑化など多岐にわたり課題が山積しています。

また、障がい者等地域生活支援委員会では、認定研修で唯一の障がい分野での認定研修を北海道で開催すべく認証申請を確実にすすめなければなりません。

福祉サービス第三者評価推進機構においては、新しい評価基準への対応や、要綱要領の改訂、養成等の研修の体制、評価機関・評価者の質の向上、受審率の向上につながる働きかけ等を検討し実施していかなくてはなりません。

右も左もわからないままのスタートですが、他の理事のみなさん、会員のみなさん、事務局のみなさん等にご支援やご指導をいただきながら、これまでの諸先輩方の功績を踏襲しつつ、現在と将来にわたる課題について、尽力したいと思えます。よろしくお願ひします。

<退職のご挨拶>

前事務局長 堀川 泰雄

平成25年から4年間に亘り、事務局に勤務をさせていただき、6月30日をもって退職いたしました。

この間、高橋修一・清野光彦両会長をはじめ、役員の皆様、会員の皆様からの温かいご指導ご鞭撻、また、事務局職員の皆様のご協力の中で充実した勤務をさせていただきました。退職後は、家庭菜園の傍ら、成年後見人活動などを続けたいと思っております。

皆様の、今後一層のご活躍、ご健勝を心からお祈りしご挨拶といたします。

ありがとうございました。

<就任のご挨拶>

新事務局長 山田 龍翁

このたびの7月より事務局の一員になりました、山田龍翁と申します。堀川前事務局長が退任されることになり、私がその後任として事務局長に就任いたしました。これまでの経験を存分に振るい本会の発展に貢献したいと存じます。

これからは事務局の舵取り役という重責を担うことになり身の引き締まる思いです。なにぶん初めて取り組む仕事ばかりで、百戦錬磨の前事務局長には及びませんが、力の限りを尽くす決意でいます。お力添えよろしくお願ひします。

【新体制決まる！】

(任期：2017 総会から 2019 総会までの 2 年間)

会 長 清 野 光 彦 (十勝地区支部)
 副会長 山 崎 加代子 (道央地区支部)
 副会長 高 橋 通 江 (道北地区支部)
 副会長 神 内 秀之介 (道央地区支部)
 相談役 高 橋 修 一 (道央地区支部)



〈委員会 担当理事の紹介〉

委員会名	担当正副会長	担当理事	地区支部
企画総務委員会	神内秀之介	☆ 竹田 匡 佐藤 雅幸 網淵 美穂	釧根 道北 道北
子ども未来部会		☆ 桜井 宏樹	日胆
ケアマネジメント委員会	山崎加代子	☆ 菅 しおり	道央
災害対策委員会	山崎加代子	☆ 山口 潤 芳賀 憂子	十勝 道央
地域包括支援センター支援委員会	高橋 通江	☆ 高桑 純一	オホーツク
ぱあとなあ北海道運営委員会	高橋 通江	☆ 海老 厚志 平田 淳	道央 道北
現場実習指導者研修委員会	山崎加代子	☆ 芳賀 憂子	道央
障がい者等地域生活支援委員会	神内秀之介	☆ 佐藤 雅幸	道北
司法分野との連携特別委員会	高橋 通江	☆ 寺尾 賢一	道南
福祉サービス第三者評価事業推進機構	神内秀之介	☆ 原 貴弘	道央
生活困難者支援委員会	清野 光彦	☆ 平田 淳	道北
生涯研修委員会	清野 光彦	☆ 渡邊 建司 三谷 真理 田巻 憲史 村上 敦哉	道北 道南 十勝 道央

【2017年度 全道研究集会】

公益社団法人北海道社会福祉士会

企画総務委員会 理事 佐藤 雅 幸

北海道社会福祉士会の魅力ある組織作りの一環として、本会独自に社会福祉士の実践研究大会を開催し、会員の資質の向上と交流の機会として6月10日（土）に、かでの2.7 520研修室で開催いたしました。



高橋修一会長より開催の挨拶をいただき、午前のプログラムであります「基調講演」を行いました。

【基調講演】

現在厚生労働省において、2016年6月閣議決定された「ニッポン一億総活躍プラン」に基づき、地域共生社会の実現に向けた各種施策が展開されており、そのため、ソーシャルワーク専門職である社会福祉士が、今後道民とともに我が事・丸ごとの地域づくりの推進に向けて、より一層の理解と私どもに求められる役割を遂行していく必要があると考えており、私たちの日々の実践に大きく関係してくる、これらのことに関してあらためて参加者とともに考える機会として、テーマを「地域共生社会の実

現に求められるソーシャルワークの機能～社会福祉士への期待～」とし、講師に厚生労働省社会・援護局 社会福祉専門官 添田正揮氏をお迎えしご講演いただきました。



「社会福祉士及びソーシャルワークを取り巻く状況について」、「社会福祉士の現状」、「地域共生社会の実現に向けた国の動向と今後の方向性」、「国における社会福祉士のあり方に関する検討～社会保障審議会福祉部会人材確保専門委員会～」について説明され、国の審議会ですべて初めてソーシャルワークについて議論されている今、社会福祉士としてその専門性をアピールするためにエビデンスに基づいたソーシャルワーク実践を積み上げて国に示していくことが必要であり、国に対して声を上げるためには、「職能団体として組織率を上げなくてはならない」ことを協調されました。

添田専門官から「ここから始まる、一緒に始める」という言葉をいただきました。この言葉を会員が共有し、道民の福祉の向上に向け一丸となって、組織率の向上、エビデンスに基づいた発言を進めていければと思います。

【研究発表】

〔発表1〕

「人材確保が困難になる中で、どのように福祉・介護の人材を確保するか～介護福祉士養成校における最近の動向から～」

北海道介護福祉学校 悪七尚広氏



〔発表2〕

「高齢者虐待対応における専門職チームの活用等について～専門職チームにおける社会福祉士(会)が担うべき役割と今後の展望について～」

北海道社会福祉士会地域包括支援センター
支援委員会



〔発表3〕

「地域住民の「支え合い」を基調とした社会的孤立者への支援を通し、「個を支える地域」

づくりへのソーシャルワーク実践」

社会福祉法人津別町社会福祉協議会

山田英孝氏

笹谷貴志氏



【ポスター発表】

昨年度は申し込みがありませんでしたが、今回は2件の発表がありました。

〔発表1〕

「社会的養護を必要とする子ども達の未来に向けて～「手稲さと川探検隊」の活動を通して考える～」

藤女子大学 小川恭子氏

NPO法人カコタム 高橋勇造氏

医療法人稲生会生涯医療クリニックさっぽろ

後藤菜摘子氏



[発表2]

「実習指導者から見た OSCE の教育的活用のあり方について」

北海道医療大学 近藤 尚也 氏
巻 康弘 氏
福間 麻紀 氏
川 勾 亜紀奈 氏



第19回公益社団法人北海道社会福祉士会 定時総会

議長に今井 敦氏を選出し審議に入りました。

(審議事項)

- 議案第1号 理事及び監事の選任
- 議案第2号 2016年度事業報告(案)
- 議案第3号 2016年度収支決算報告(案)
- 議案第4号 2016年度監査報告(案)
- 議案第5号 相談役の選任
- 議案第6号 倫理委員会委員の選任

(報告事項)

報告第1号 理事会承認事項
が上程され、いずれも承認されました。

また、理事及び監事につきましては、過日会員の投票を経て本定時総会において、

鈴木健選挙管理委員会委員長の下、理事監事の信任投票が行われ、その結果について報告がありました。引き続き、会長選出の臨時理事会が開催され、新役員が選出されました。

また、今回で退任される役員の皆様からご挨拶をいただきました。

【退任された役員皆様】

会長 高橋 修一 様
副会長 山本 幸治 様
理事 島田 剛 様
理事 野村 宏之 様
理事 林 富子 様
理事 湯浅 弥 様
外部理事 松本伊智朗 様

役員として会の運営にご尽力いただきました皆様には感謝いたします。ありがとうございました。

その後、会場を移し会員の皆様との「交流・情報交換会」を行いました。

【倫理委員会委員】

会員委員 杉野 全由 氏
林 和典 氏
尾崎 誠 氏
会員外委員 末長 宏章 氏
(札幌弁護士会)

小嶋 健二 氏

(道精神保健福祉士協会)



【クロスワード】 ここにもいます 社会福祉士

北海道社会福祉士会の会員がいる市町村名で、パズルを作りました。
A～Gに入るひらがな7文字をつなげると、『障がい者を取りまく社会が、障がい者の生きづらさを作り出している』という考え方になります。



A○○○ ～鍛高地区でシソの生産が行われており、その地名はシソ焼酎「鍛高譚」の名に採られている。



○○○B○



～北海道遺産に「スキーとニセコ連峰」が選定されており、農業ではジャガイモの生産が国内トップクラス。

○C○○○○

～村のキャラクター「ピータン」は特産品のたまご、豆、いもを組み合わせたひよこ。



○○○○D



～1985年には「水道水のおいしい10万人以上の都市」に北海道から帯広市とともに選ばれており、ホッキ貝の漁獲量は全国の約11%を占める。

○E○

～主な産業は貿易などのその他商業、土木業、水産加工業でカズノコの国内最大の加工地。



○○○F`



～出身、ゆかりのある著名人は多く、元JUDY AND MARYのYUKIやGLAYのTAKUROなどの出身地としても有名。

○○○G

～平成17年4市町村が合併した道内有数の面積を誇るオホーツクの町。

【前号の答え】 = 「福祉事務所」

(ふらの、くしろ、しゃり、じらおい、めむろ、ふくしま、きょうわ)

※都道府県、市の他に任意で全国43町村にも設置されています。(H28.4.1現在)



【事務局からのお知らせ】

☆自宅・勤務先の変更届について☆

自宅・勤務先が変更となった方はいらっしゃいませんか？

あて先不明で郵便物が事務局へ戻ってくる事が多くなっております。

変更がある場合は、速やかに事務局までお知らせください。

本会ホームページからも変更手続きができますのでご利用ください。



【各地区支部からのお知らせ】

【道央地区支部】

9月6(水)18時30分～札幌市社会福祉総合センターにて「社会福祉士による災害支援活動の実際」をテーマに釜石市地域包括支援センター社会福祉士が東日本大震災の体験談を語るDVDを鑑賞する会員サロンを開催。参加申込はFAX(011-688-6878)へ氏名、勤務先、電話番号をお知らせください。参加費は、本会会員は無料、非会員は500円いただきます。

【道北地区支部】

さる5月20日(土)、旭川市において道北地区支部春季セミナー・支部全体会を実施いたしました。今回のセミナーでは、南富良野町における災害の経過報告を受けた上で、福祉専門職における防災意識の共有のあり方についてのシンポジウムを行い、会員・非会員合わせて41名の参加がありました。また、支部全体会では役員の改選が行われ、2017年度から新体制となりました。

【道南地区支部】

道南地区支部では7月21日に全体会を開催(現時点では予定)。「司法と福祉の連携」についての定例学習会の後、今年度の地区支部の事業や体制の確認をしていきます。司法との連携では全体会において函館弁護士会との協定書について確認しますが、これら地域の会への期待に応えられる組織づくりを目指していきます。

【日胆地区支部】

権利擁護セミナー「高齢者虐待の理解と成年後見制度活用法」平成29年9月2日(土)13:30～15:00 製鉄記念室蘭病院がん診療

センター3階大講堂

講演①『高齢者虐待とは』 苫小牧市中央地域包括支援センター 浅野豊氏

講演②『高齢者虐待から成年後見制度を活用した事例』 苫小牧市成年後見支援センター 古川義則氏

【十勝地区支部】

5月20日第1回学習会、地区支部全体会を開催し37名の出席を頂きました。学習会では「新理事よりの提言」と題し道理事の3名から社会福祉士として大切にしていることを語って頂きました。7月27日には司法連携部会主幹で罪に問われた高齢、障がい者に対する支援に関する研修会を開催し司法と福祉の連携のあり方について考えたいと思います。

【オホーツク地区支部】

6月21日、オホーツク圏域の裁判所や市役所など関係機関への挨拶まわりを行いました。これは担当者の顔つなぎ及び地域によって差が生じている社会福祉士の知名度向上とオホーツク圏域において「ばあとなあ」登録者が後見等受任活動を行っていることの周知を主な目的として毎年この時期に実施しています。

【釧根地区支部】

今年度は道東社会福祉士のつどいの幹事支部になっています。どの会員も忙しくなり日程調整から苦勞をしていますが他地区支部との交流が楽しめる企画を検討中です。

地区会員の交流を増やすため「U-35有志の会」のメンバー募集をしています。楽しめる企画を用意しています。是非、ご参加ください。